

れきはく NEWS

島根県立古代出雲歴史博物館の
旬な話題や情報をお届けします

vol.66
2026.AUG

Shimane Museum of Ancient Izumo

CONTENTS

- 2 リニューアル記念 特別展 その後のヲロチとスサノヲ
- 4 常設展示のリニューアル
- 6 世界遺産室通信／古代文化センター通信
- 7 アテンダント通信
- 8 令和8年度イベントスケジュール

天井が新しくなった中央ロビーに
「宇豆柱」が帰ってきました！



リニューアル記念 特別展

その後の

ヲロチと

スサノヲ

The Afterstory : Orochi and Susanoo

2026年10月9日(金)～11月29日(日)

※会期中の休館日／10月20日(火)・11月10日(火)・11月17日(火)

日本神話のなかでも最もよく知られるヤマタノヲロチ退治神話。興味深いことに、怪異や戦乱、ことに人智人力では抗い得ない大規模災害・疫病流行が起こるたびに、人々はヲロチの記憶を思い起し、スサノヲの再来を渴望してきました。

今回の特別展では、中世以降様々に変容しつつ語り継がれたヲロチ退治神話をもとに、単に英雄神、悪神という位置づけでは説明しきれないスサノヲとヤマタノヲロチの特質を通して、いにしえの人々が「人智を超越した存在」にどのように向き合ってきたのかを探ります。

プロローグ

暴虐のかぎりをつくす荒ぶる神なのか？ 最強無比の英雄神なのか？ 姉と弟の関係にありながら、最高至上神のアマテラスに対して、神々により高天原から追放され、出雲でヲロチを退治し、やがて「根の国」に去っていったスサノヲ。その評価が、人により時代により大きく分かれていたことを紹介します。



石本正「島根の神楽(櫛名田比売と八俣の大蛇)」
昭和43(1968)年 島根県民会館

Ⅰ. ヲロチの起源

そもそも太古の昔においては、「蛇」とは如何なる存在で、人々はどのように受け止め、語り継いできたのでしょうか。蛇にまつわる古代の伝承や、数々の考古資料などをもとに探ります。



縄文土器(勝坂式)
縄文時代中期
三鷹市

II. フロチ退治神話の展開

酒を飲むフロチの前で、スサノヲにより櫛に変化したはずのイナタヒメが高床の棚の上にすわり、そのかたわらではアシナヅチが火を焚いている――。

中世以降『日本書紀』・『古今和歌集仮名序』などの解釈を通じて、フロチ退治のストーリーが複雑多様に展開していったことを紹介します。



「氷川大明神并宝泉寺縁起絵」(部分)
慶長10(1605)年 渋谷氷川神社

III. その後のフロチ

退治されたはずのフロチが生まれ変わった？ 源頼光らに討ち取られた鬼の棟梁・酒吞童子の父はヤマタノフロチ？

天智天皇の時代の草薙剣窃盗事件、壇ノ浦の合戦における安徳天皇入水による宝剣喪失などの事件が、新たなフロチ神話を生み出していったことを紹介します。



歌川芳虎「西海蟹女水底ニ入テ平家ノ一族二見」(部分)
弘化元(1844)年 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館

IV. 出雲のスサノヲとフロチ

フロチ退治の舞台である、八雲立つ出雲。

『出雲国風土記』には『記紀』とは異なる性格のスサノヲが伝えられ、やがて出雲独自のスサノヲ神話、フロチ退治神話が育まれました。その独自の神話が出雲の神楽にも影響を与えたことを紹介します。



荒川亀斎「神楽面 蛇頭」
明治29(1896)年頃 山王寺本郷神楽社中

V. 救いの神 スサノヲ

スサノヲは仏教の神・牛頭天王と同一視されました。疫病などの災いをはらうため、人々が心を一つにして勇猛な神威を仰いでいたことを紹介します。



松本喜三郎「生人形 素戔鳴尊」
明治8(1875)年 桐生市本町四丁目自治会

常設展示の

当館の常設展示は以下の3室にわかれています。

- ①総合展示室 「島根の人々の生活と交流」
②テーマ別展示室 「出雲大社と神々の国のまつり」「出雲国風土記の世界」「青銅器と金色の大刀」
③神話回廊 「受けつがれる神話と祭り」「神話シアター」

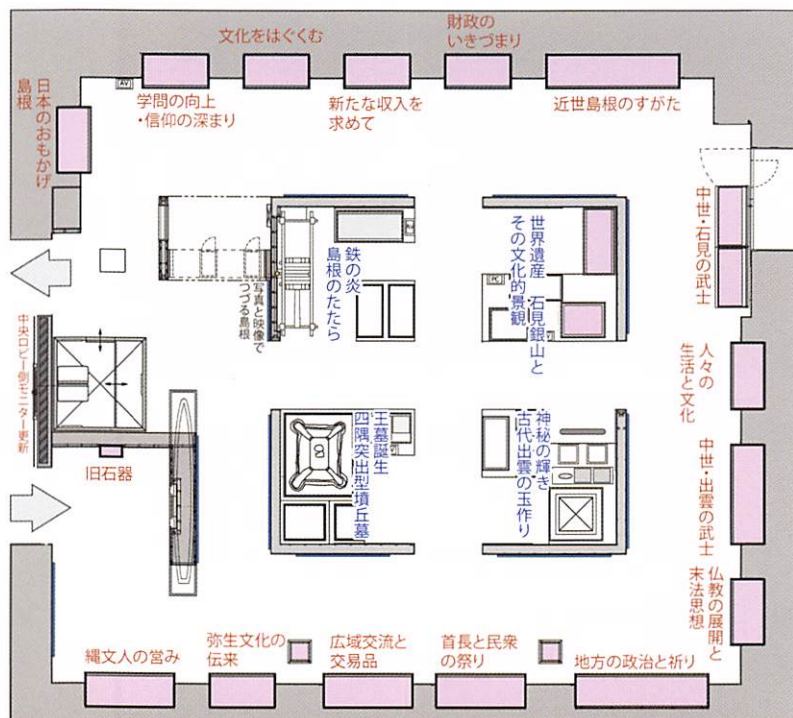
このうち①総合展示室と、③神話回廊について、このたびリニューアルをおこないます。

総合展示室

この部屋の外周壁ケースは、時代順に展示を構成する「通史展示」となっています。今回のリニューアルでは、

- 小中学校の社会科で学ぶ内容と対応するように
- 身近な地域資料を用いて、歴史・文化を実感・体感できるように
- 出雲・石見・隠岐の地域バランスが偏らないように

をコンセプトに、全面的に展示品を一新します。ケース内のクロス貼り替えや、新たな展示台の製作が完了しました。これから資料をケース内に展示する作業を進めて参ります。部屋の構造は変わりませんが、島根の歴史・文化のエッセンスを凝縮した、新たな展示内容に生まれ変わります。



総合展示室の平面図

内容を更新・変更する展示ケース



まだ空っぽの展示ケース



貼り替えが完了したグラフィックパネル

また、壁面に設置している計8面のグラフィックパネルをすべて一新します。イラスト・写真を多く用いて親しみやすく、また地図を使って県内の地理情報を充実させるよう工夫しました。展示品とあわせてご覧いただくことで、「島根の人々の生活と交流」について、より深く知っていただける内容となっています。

リニューアル

神話回廊

神話回廊は「受けつがれる神話と祭り」と「神話シアター」の2室にわかれています。「受けつがれる神話と祭り」は、神話が歴史のなかでどのように語られ、再解釈されてきたかを示す歴史資料の展示と、神話の表現でもある神楽に代表される県内の祭りや行事に関する資料の展示で構成されます。

祭りや行事に関する展示が今回のリニューアルで追加された部分で、弥栄神社の鷺舞^{さぎまい}（津和野町）や石見神楽の大蛇^{をろち}など、大きな資料を展示するために室内に設けられていた仕切り壁をすべて取り除き、展示室の中央にステージを設けました。



展示室中央に並ぶ弥栄神社の鷺舞と石見神楽の大蛇

弥栄神社の鷺舞はマネキン人形に衣装を着せ、実際の舞と同じポーズを再現しました。羽を広げた優雅で美しい造形をじっくりご覧いただきたいと思います。

壁面には^{おきこくぶんじれんげえまい}隠岐国分寺蓮華会舞（隠岐の島町）の仮面と神楽の仮面・衣装を新たに展示しました。蓮華会舞の仮面は、平成19年（2007）に起きた隠岐国分寺本堂の火災で焼失したものを題材にしています。仮面の調査報告書に記されたデータと記録写真を参考にして、国分寺ご住職の協力を得て今回のリニューアルに合わせて復元したものです。



復元した隠岐国分寺蓮華会舞の仮面

「神話シアター」では「スサノヲ神話」「オオクニヌシ神話」「風土記神話」「中世のヲロチ神話」の4作品を上映していますが、このうち「中世のヲロチ神話」以外の3作品は開館にあわせて制作されたもので、開館から20年近く経った現在の水準からすると、CG（コンピュータグラフィックス）など映像の質が劣って見えることが課題になっていました。

そこで、リニューアルでは映像の上映機器を更新するとともに、アニメーションと最新のCGを用いてリメイクに取り組みました。どの作品も内容はリニューアル前と変わりませんが、飽きずに楽しんでいただけるように各作品の画風を変え、演出にも工夫を凝らしました。

臨場感あふれる映像体験を通して、島根に伝わる神話の世界をご堪能ください。



スサノヲ神話



オオクニヌシ神話



風土記神話

石見銀山発見500年・世界遺産登録20周年記念

古代オリエント博物館特別展「古代オリエントから石見銀山へー銀が動かす世界ー」のご紹介

令和9年は石見銀山が発見されてから500年、また世界遺産に登録されてから20年の節目の年にあたります。そこで、島根県では、「石見銀山発見500年島根県記念事業」を開催します。今回は、記念展の第一弾として行われる古代オリエント博物館の展覧会について紹介します。なお、令和9年夏に当館で第二弾、秋には石見銀山資料館で第三弾を予定しています。ご期待ください。

古代オリエントは人類最古の文明の発祥地であり、東西文明の交流の場として世界に大きな影響を及ぼした地域です。その古代オリエントにおける、人類と金属との関わり、とりわけ銀について経済や文化を動かした役割を紹介します。また、銀の時代ともいわれる大航海時代に多量の銀を産出した石見銀山について、鉱山社会の実態や銀生産などの視点で迫る展覧会です。

展示品として、古代オリエントの金銀装身具、再生と復活を象徴するネフェルタム神護符（銀製神像、エジプト／紀元前11世紀～紀元前8世紀）、鉄剣、ペルシアやシルクロードの銀製容器、世界で最初に造られたエレクトラム（金と銀の自然合金）貨（リュディア／紀元前6世紀）をはじめとするコインの数々、そして石見銀山ゆかりの貴重な品々が並びます。

講演（オンライン含む）やイベントも盛りだくさんです。

詳細はウェブサイトをご覧ください。

交流普及スタッフ 渡部麻生



会期：令和8年9月19日（土）～令和8年12月6日（日）
会場：古代オリエント博物館
（東京都豊島区東池袋3-1-4 サンシャインシティ文化会館ビル7階）
共催：公益財団法人古代オリエント博物館
石見銀山発見500年島根県記念事業実行委員会



古代文化センター通信

テーマ研究「江の川の歴史的特質の研究」が始まりました

島根県古代文化センターでは、令和8年度からテーマ研究「江の川の歴史的特質の研究」が始まりました。

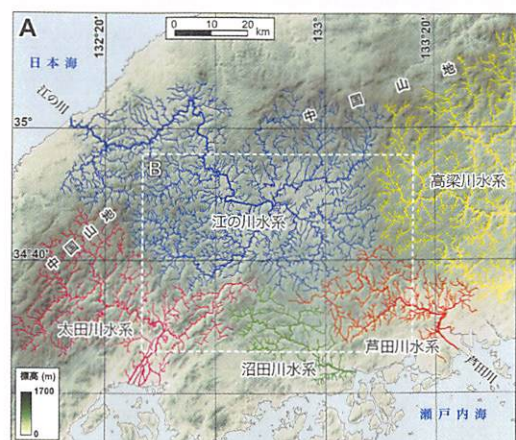
ところで、皆さんは島根県江津市に河口がある「江の川」をご存じでしょうか？ 江の川の本流は、今から1600万年前、中国山地の土台の一部が海だったところの名残で、中国山地が形成される前に誕生した「先行河川」と呼ばれる西日本最大の一級河川です。広島県の阿佐山（標高1,218m）を源流に、本流の総延長約190km、302の支流を含めた流域面積は3,900㎡を擁するもので、「中国太郎」の異名をもつ大河です。日本海から中国山間部を経て瀬戸内側をつなぐ交通の要として、原始・古代から現代にいたるまで、豊かな歴史文化を育んできました。

このテーマ研究は、江の川の地理的特質に由来する流域文化を通史的に明らかにすることを目的としています。地質学や地理学の専門家を交えながら、通史的な研究については、主に「縄文～古墳時代」・「古代」・「中世」・「近世」・「近現代」を取り上げ、漁撈用具などの有形民俗文化財から江の川の生業、無形民俗文化財から江の川流域の祭礼行事の特質を追及します。

古代文化センターのテーマ研究は、特定の時代の政

治や文化を明らかにする目的のものが多かったと思います。しかし、今回のテーマ研究は様々な分野の研究者が、お互いに刺激を与え合いながら進めていく異種格闘技的なテーマ研究です。また、フィールド調査の様子もお知らせしたいと思います。ご期待ください！

古代文化センター専門研究員 仁木 聡



【図】蝶が羽を広げたような「江の川水系」と周辺の水系

後藤秀昭・森 渉・山中 蛸2022「芦田川水系の河川争奪と天然記念物「久井・矢野の岩海」の形成」『広島大学総合博物館研究報告』14, p.35

アテナント通信

笑顔でかけめぐる、初夏の研修

5月に島根県埋蔵文化財調査センターを訪問しました。出土した文化財が博物館に展示されるまでどのような工程を経ているのか、どのような人が作業をされているのかなど、学芸員から説明を受けました。

文化財の修復作業をされている様子を近くで見せていただいたり、保存処理をする部屋に入らせていただいたり、とても貴重な経験をしました。私たちが普段展示室で目にしている文化財が、後世に伝え残すため、たくさんの人の手によって大切に受け継がれていることを実感することができました。

また、加賀の潜戸クルーズにも乗船しました。出雲国風土記に登場する神話の舞台となった海の洞窟を間近で見ることができ、その神秘的な美しさと自然の力強さに感動しました。



島根県埋蔵文化財調査センター



学芸員解説の様子



加賀の潜戸

6月には、島根半島・宍道湖中海ジオパークに指定されている日御碕エリアを散策。

今回は「出雲国ジオガイドの会」に所属している当館のアテナントが案内してくれました。

何度も足を運んでいる日御碕も説明を聞きながら歩くと、ダイナミックな地層や植物、灯台の石に至るまで新しい発見がたくさんあり、とても充実した時間を過ごすことができました。

ちょうどウミネコの繁殖シーズンということで、経島で子育てをしているウミネコをじっくり観察しました。「ニャアニャア」と鳴きながら懸命に子育てをするウミネコたちがほほえましかったです。



日御碕



経島

PRイベントを東京で今年も開催

7月11日～12日に、日比谷しほ館で「出雲れきはくワークショップ」を開催しました。

人気コーナー「青銅器の復元品に触れてみよう」は今回も行列ができるほど！学芸員の解説を聞きながら青銅器のなぞと不思議に触れていただけたのではないかと思います。

おなじみの「銅鐸トートバッグづくり」や「和本風メモ帳づくり」のワークショップも連日大盛況でした。

カフェスペースでは「古墳カレー」や「古墳プリン」も提供され、ワークショップと合わせて古代出雲にどっぷり浸っていたのではないのでしょうか。

お立ち寄りいただきました皆さま、ありがとうございました。



令和8年度イベントスケジュール

学芸員が語る!ミュージアム講座

「出雲の勾玉はいかにして誕生したか?
ー9月6日は「勾玉の日」ー

9/6(日)

講師:調整監 深田 浩



「開館直前!リニューアル後の
歴博みどころ講座」講師:主任学芸員 小田七奈



9/6(日) 「観月会〜月待の会」

10/1(木) 「リニューアルオープン!」

10/4(日) 「れきはく秋まつり2026」

「弥栄神社の鷺舞(津和野)」初出演!
秋まつりにやってくる!



10/9(金) 「リニューアル記念 特別展 その後のヲロチとスサノヲ」開幕

1/1(金・祝)~3(日) 「れきはく新年まつり」

3/14(日) 「開館記念イベント れきはくであそぼ」



古代出雲歴史博物館 新料金のお知らせ

観覧料		
常設展	一般	¥680(¥530)
	大学生	¥450(¥350)
	小中高生	¥220(¥170)

※()内は20名以上の団体料金です。※企画展・特別展はその都度定めます

ミュージアムパスポート(年間観覧券)

一般	¥1,650
大学生	¥1,100
小中高生	¥550

もういくつ寝ると…リニューアルオープン
カウントダウン看板を設置しています!



少し前になりますがリニューアルオープンに向けて機運を高めるために
カウントダウン看板を431号線沿の駐車場入り口付近に設置しまし
た。博物館の前を通りかかれた際には開館までの日数を確認して
みてください。

(7月31日撮影)



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
[URL] <https://www.izm.ed.jp> [E-mail] contact@izm.ed.jp
令和7(2025)年4月1日~令和8(2026)年9月(予定)の間、
耐震改修工事等のため休館



マスコットキャラクター
雲太くん



発行/令和8年8月



マスコットキャラクター
出雲ちゃん